



SAIDAIJI JC REPORT

2004年度スローガン

Try for Tomorrow

「明日のために取り組もう」

2004年度スローガン

Try for tomorrow

「明日のために取り組もう」



快 挙 ! 8 年 ぶ り 高 杉 カ ッ プ 制 覇

「西大寺JC 8年ぶりに

高杉カップ制覇！」

監事 茂成 潤

去る、十一月二十八
(日)清音村高梁川河川
敷グラウンドにおい
て、高杉カップサッカ
ー大会2004が、総
社JOCの主管で、開催
されました。

我が西大寺JCは、
7年振りにチームを復
活して、この大会に参
加致しました。

当日の、メンバーは
藤原理事長をはじめと
する現役メンバー13
名に、岸彰徳、中村浩
二両先輩を加えた15
名でした。予選リーグ
では、いきなり前回優
勝チームの笠岡JOCと、
強豪の津山JOCと同組
となり、予選敗退もメ
ンバーの頭をよぎった
のですが、粘りのサッ
カーで2戦ともドロー
にもちこみ、さらに、

決勝トーナメント進出を賭けたPK戦で笠岡JCに逆転勝利し、なんととか決勝トーナメント進出を決めました。

決勝トーナメントでは、1回戦の岡山JC戦で、岡山の攻撃をなんとか凌いで、PK戦にもちこみ、またも逆転勝利をおさめ、準決勝の倉敷JC戦では、エース岡本君の2ゴールで3対1と快勝致しました。そして、いよいよの決勝戦の相手は予選リーグで引き分けた津山JC、8年前に初優勝したときの決勝戦と同じ相手です。今度こそ20分の時間内での勝利を目指したのですが、15名の選手の身体はすでにガタガタで、何度か決定的な場面も作りましたが、ゴールを割ることが出来ず、決勝戦も、その日3回目のPK戦へと突入しました。ここまで、2度の

PK戦を勝利に導いた守護神、岸先輩の神通力は、ここでも冴え渡り、見事またしても逆転勝利で、8年振りに高杉カップを奪還することとなりました。本当に、いつ負けてもおかしくない、薄氷を踏む勝利の連続でしたが、最後までこのトーナメントを勝ち抜くことが出来た原動力は、メンバーの結束力以外のなものでもありません。西大寺JCメンバーの心意気を感じることとなった一日でした

←勝利の美酒に酔いしれる茂成監事



「OB懇親会を開催して」
ブロック野球大会

実行委員会副委員長

岡本 光生

去る十一月十日水曜日十九時から行われ、日十九時懇親会、大盛況に終わりました。

今回は、昨年とは違い十一月一日に名称が変わった、瀬戸内市のホテルリマーニにて開催されました。年に一度の現役会員と特別会員との懇親の場を担当させて頂きました山根、近藤と頂きました。度重なる私、岡本です。台風で営業の方が心配でしたが、そんな心配はどこへやら、19時から始まった例会では特別会員のいらっしやる中での3分間スピーチ。スピーチされた方とはとても緊張していたが、ポットみたいでしたが、全体的にはトレーニングの成果があったと思

います。それぞれに説得力があり聞き応えのあがりました。例会終了後の、OB懇親会においては、特別会員のご挨拶で山根章太郎先輩にお願いをさせて頂きました。乾杯では山根先輩の大親友である吉永教幸先輩にお願いをさせて頂きました。その時に、私がjcに入ったきっかけはここにおられる山根さんですと言われ、その後にお酒が強くなったのもここにおられる山根さんですと言われ、現役会員も緊張が和らぎ和やかなムードが続きました。

そんな中、スマイルタイムの時に特別会員の方々から新会員の獲得に協力させて頂きますと、お言葉を頂き、これからの新会員獲得にがんばっていきましょうと思

祝「卒業」



「卒業にあたって」

理事長 藤原知弘

青年会議所に入会させて頂き、あっといいう間に十二年間が過ぎてしまいました。

この十二年間を通じて自身、色々な面で勉強させて頂き、色々な方と出会い、本当に充実した月日を過ごさせて頂きました。想えば、十二年前、何も知らないまま入会していきなりの岡山での「全国大会」を経験。同じ秋には、ロム主管の「じやがいも大会」の経験。と先輩方の後を付いて一

所懸命やらさせて頂いた事がついこの前のような気さえ致します。

初めての委員長では「吉井川フェスタ」の担当委員会を任せましたが、当日は季節外れの台風の襲来により止むなく中止が決定され、悔しい思いをしました。

また、2000年には「ブロック委員長」として出向して、ここでもたくさんの仲間を得る事が出来ました。

どれひとつとっても、どの出会いをとっても自身の財産となりました。

そして、最終年度、「西大寺青年会議所第四十四代理事長」を務めさせて頂き、今までのJCライフの中で一番忙しく、一番充実した一年を過ごさせて頂きました。

ある理事長経験者方が「今までのJCライフで得た物の半分は理事長をした、一年で得た。」とお

っしゃっておられました。

正に私自身、その通りだと感じております。この一年間、緊張の中で開催された「新年会」に始まり、過去最高の参加児童数の「少年はだかまつり」県内各地青年会議所メンバーが介しての「会陽懇親会」。三月には玉野、備前、西大寺の3JC合同例会。そして、本年度「53回ブロック懇親野球大会」は我がロムでは最大の事業でした。夏には「吉井川フェスタ」秋には「OB懇親会」「瀬戸内市長選、公開討論会」。また、本年度は度重なる自然災害、台風による瀬戸内沿岸の浸水もあり、青年会議所として被災地の見舞い、及びわずかですが義援金を送る等、一年を通して様々な出来事があったように思います。しかしながら、こうしてどうにか2004年度に終止符を打てる事は、地域の方々

のお陰、先輩方のお陰、そして何よりメンバーのみんなのお陰であると思っております。また最終年度、理事長に推薦して頂きました延原直前理事長。すばらしい一年を与えてくださってありがとうございました。そして、この十二年間を通じて出会えた全ての方々、本当にありがとうございました。今、改めて感謝申し上げます。

最後にあと一年間、直前として残りはしますが卒業生として現役に二つだけメッセージを送りますが「ちよつと無理してJCして下さい。そうすればかけがえのないものをたくさん得る事が出来ます。」そしてもう一つ「青年会議所へ送り出してくれた自分の会社と家族に感謝して下さい。」そのふたつをどこか片隅に覚えて頂ければ幸いです。

祝「卒業」



「卒業にあたって」

直前理事長

延原寛紀

私が社団法人 西大寺青年会議所に入会させて頂いたのは1992年1月ですが、その頃は60名を超えるメンバーが在籍し、先輩達の名前と顔を覚えるのも苦労したような気がします。また、翌年には岡山で全国会員大会が開催され、西大寺JCも副主管LOMとして、メンバーが一丸となって大会を盛り上げまし

た。その他、野球大会や、じやがいも大会等のブロックの大きな事業もメンバー全員で乗り越えてきました。その他にも数え切れない程思い出はありますが、私にとってやはり忘れられないのは、2003年に第43代の理事長を拝命した事が一番の思い出となりました。一年間という短い期間ではありましたが、とにかく積極的に前に出る事を心情としてスローガンも「Challenger」とし、また会場では県内外の青年会議所から約200名のメンバーに参加をしてもらい、西大寺JCの勢いをアピール、20数名の少数LOMでもやればできることを実証できた事業になったと思います。それにしても今思えばあつという間のJCライフでした。苦しいこともたくさんありましたが、それ以上に楽しいこともあ

りなによりも多くの仲間と知り合えたことが私にとって最高の財産になりました。さいごになりましたが、来年は山根理事長のもと西大寺JCがますますご活躍されることを心よりご期待を申し上げます、また13年間のJC生活でお世話になったすべての皆さん、そしていつも支えてくれた家族に心から感謝を申し上げ、卒業にあたっての御礼の言葉とさせていただきます。有難う御座いました。

祝「卒業」



「卒業にあたって」

黒石泰広

33歳で延原君、山名先輩に目を付けられ、拉致されてはや7年が過ぎ、やっとならぬ卒業を迎えることになりました。でも、中身の濃い充実した7年でした。スポンサーのお二人にはもちろん先輩の方々、そしてメンバーの方々、本当にありがとうございます。この7年間で得たものは計り知れないものでした。目には見えないけれど、今後の人生を生き抜く為の武器の一つであると思います。ある卒業された先輩がいわれておられました。「忙しさは相変わらずなのにどうやってJCの活動をやりくり出来ていたのかわからない。若かつたからかな? いや、どうしても楽な方に流れてし



祝「卒業」

まうので時間のやりくり
に 横着になってしまっ
たみたいだ。」現役メンバ
ーに一つだけ言い残せる
とすれば、JCで時間の
やりくりを覚えてくださ
い。このご時世、忙しい
のは皆一緒です。だから
こそ限られた時間を工夫
する努力をして下さい。
若さと情熱で必ずこな
す事ができると思います。
頑張ってください。

「卒業にあたって」

青少年開発委員会

委員長

目黒 宝

平成5年7月に入会
以来、約11年間長かつ
たようで、あつという間
に過ぎ去った11年間
でした。入会の年の全国
会員大会、翌年の台湾岡
山JCへの訪問、その年
の結婚、・・・。

11年間を振り返れ
ば、語り尽くせないほど
の思い出があります。

ただ、近年にいたって
はリーダーシップのな
さで、事業が確実に遂行
できておらず皆様方
には大変ご迷惑をおかけ
しております。

11年間トレーニン
グをしてきて何を
しているのかとお叱りを受
けるのもごもつともで
あります。

今後委員長をされる
方、理事長をされる方は、
リーダーシップを遺憾
なく発揮され青年会議
所運動を遂行してくだ
さい。

卒業まで残すところ
あと数日間の現役生活
ですが本年度残された
こと、きっちり片をつ
けて卒業したいと思
います。

最後になります
JCという会に入会
するチャンスを与えて
下さったスポンサーの
岸先輩、久本先輩、11
年間支えてくださって
有難う御座いました。

そして共に青年会議
所運動をしてきたメン
バーの皆さん心から有
難う御座いました。

それでは、今後西大寺
青年会議所の皆さまの
ご活躍とますますの
発展を心よりお祈り申
し上げます。

行事予定

- 1月7日 1月新旧合同役員会
(西大寺商工会議所)
- 1月12日 1月例会
(西大寺商工会議所)
- 1月14日 新年祝賀会
(西大寺グランドホテル)
- 1月22日～23日 京都会議

発行日 H16年12月28日
発行責任者 藤原 知弘
編集責任者 井上 裕嗣
発行所 社団法人
西大寺青年会議所



祝「卒業」

監事

村松 太